

# 「平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」結果について

## 1 実施概要について

### (1) 調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上
- ②教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立
- ③児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に活用

### (2) 調査の対象及び内容【平成31年4月18日（木）実施】

- ①各小学校6年生及び各中学校3年生の全児童生徒が対象
- ②これまでのA問題、B問題を一体化した問題
- ③調査内容
  - ア. 国語、算数・数学、英語の学力調査
  - イ. 児童・生徒の学習状況等に関する質問紙調査
  - ウ. 学校に対する質問紙調査

### (3) 実施の状況（公立の実施学校数と児童生徒数）

#### ①全国の状況

- 小学校等 19,263校
  - ・国語：1,028,203名
  - ・算数：1,028,177名
- 中学校等 9,513校
  - ・国語：938,797名
  - ・数学：938,887名
  - ・英語：938,888名

#### ②本県の状況

- 小学校等 240校（小学校239校、義務教育学校前期課程1校）
  - ・国語：8,760名
  - ・算数：8,759名
- 中学校等 98校（中学校95校、義務教育学校後期課程1校、特別支援学校中学部2校）
  - ・国語：8,951名
  - ・数学：8,949名
  - ・英語：8,949名

## 2 学力調査の結果（本県における各教科の平均正答率）

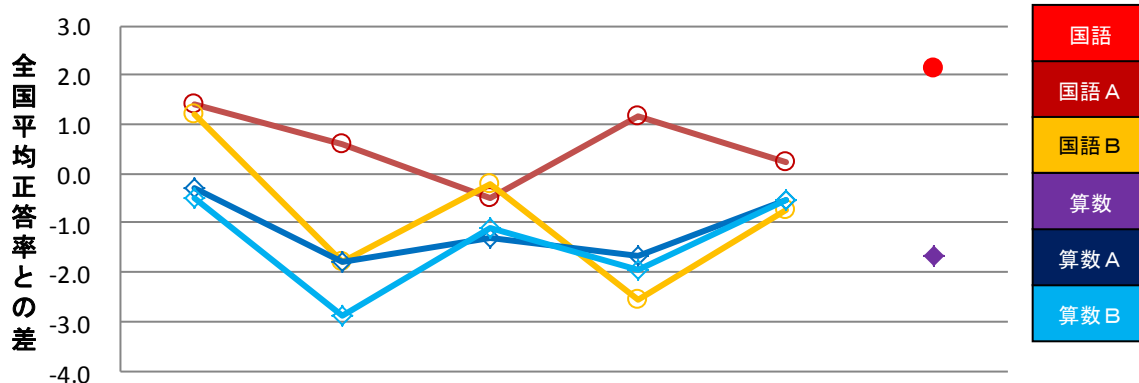
### (1) 小学校6年生 ※数値は正答率%（カッコ内は全国平均）

国語	<b>66</b> (63.8)
算数	<b>65</b> (66.6)

### (2) 中学校3年生 ※数値は正答率%（カッコ内は全国平均）

国語	<b>73</b> (72.8)
数学	<b>58</b> (59.8)
英語	<b>53</b> (56.0) （「話すこと」調査除く）

## 全国学力調査(小学6年)経年比較



	H26	H27	H28	H29	H30	H31
国語●						1.7~2.6
国語A○	1.4	0.6	-0.5	0.7~1.6	-0.2~0.7	
国語B○	1.2	-1.8	-0.2	-3.0~-2.1	-1.2~-0.3	
算数◆						-2.1~-1.2
算数A◇	-0.3	-1.8	-1.3	-2.1~-1.2	-1.0~-0.1	
算数B◇	-0.5	-2.9	-1.1	-2.4~-1.5	-1.0~-0.1	

※平均正答率について、全国の値は小数第1位まで示されているのに対し、都道府県の値は平成29年度から整数値で示されていることから、平成29年度以降のグラフの値は、全国との差の範囲の中心としています。

### ○小学校国語

#### A問題(主に知識に関するもの)

#### B問題(主に活用に関するもの)

年度	平均正答率	全国との差	年度	平均正答率	全国との差
平成26年度	74.3	+1.4	平成26年度	56.7	+1.2
平成27年度	70.6	+0.6	平成27年度	63.6	-1.8
平成28年度	72	-0.5	平成28年度	58	-0.2
平成29年度	76	+0.7~+1.6	平成29年度	55	-3.0~-2.1
平成30年度	71	-0.2~+0.7	平成30年度	54	-1.2~-0.3

#### A・B問題一体化

平成31年度	66	+1.7~+2.6
--------	----	-----------

### ○小学校算数

#### A問題(主に知識に関するもの)

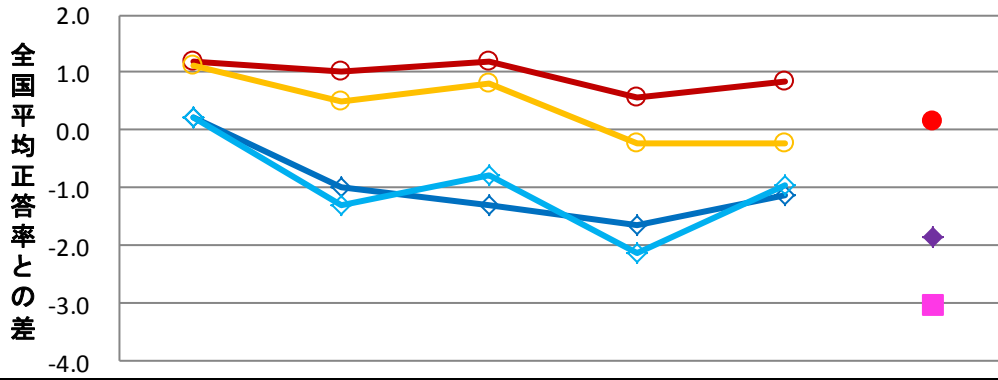
#### B問題(主に活用に関するもの)

年度	平均正答率	全国との差	年度	平均正答率	全国との差
平成26年度	77.8	-0.3	平成26年度	57.7	-0.5
平成27年度	73.4	-1.8	平成27年度	42.1	-2.9
平成28年度	76	-1.3	平成28年度	46	-1.1
平成29年度	77	-2.1~-1.2	平成29年度	44	-2.4~-1.5
平成30年度	63	-1.0~-0.1	平成30年度	51	-1.0~-0.1

#### A・B問題を一体化

平成31年度	65	-2.1~-1.2
--------	----	-----------

# 全国学力調査(中学3年)経年比較



国語
国語A
国語B
数学
数学A
数学B
英語

	H26	H27	H28	H29	H30	H31
国語●						-0.3~0.6
国語A○	1.2	1.0	1.2	0.1~1.0	0.4~1.3	
国語B○	1.1	0.5	0.8	-0.7~0.2	-0.7~0.2	
数学◆						-2.3~-1.4
数学A◇	0.2	-1.0	-1.3	-2.1~-1.2	-1.6~-0.7	
数学B◇	0.2	-1.3	-0.8	-2.6~-1.7	-1.4~-0.5	
英語■						-3.5~-2.6

※平均正答率について、全国の値は小数第1位まで示されているのに対し、都道府県の値は平成29年度から整数値で示されていることから、平成29年度以降のグラフの値は、全国との差の範囲の midpoint としています。

## ○中学校国語

A問題(主に知識に関するもの)

B問題(主に活用に関するもの)

年度	平均正答率	全国との差	年度	平均正答率	全国との差
平成26年度	80.6	+1.2	平成26年度	52.1	+1.1
平成27年度	76.8	+1.0	平成27年度	66.3	+0.5
平成28年度	77	+1.2	平成28年度	67	+0.8
平成29年度	78	+0.1~+1.0	平成29年度	72	-0.7~+0.2
平成30年度	77	+0.4~+1.3	平成30年度	61	-0.7~+0.2

A・B問題を一体化

平成31年度	73	-0.3~+0.6
--------	----	-----------

## ○中学校数学

A問題(主に知識に関するもの)

B問題(主に活用に関するもの)

年度	平均正答率	全国との差	年度	平均正答率	全国との差
平成26年度	67.6	+0.2	平成26年度	60.2	+0.4
平成27年度	63.4	-1.0	平成27年度	40.3	-1.3
平成28年度	61	-1.3	平成28年度	43	-0.8
平成29年度	63	-2.1~-1.2	平成29年度	46	-2.6~-1.7
平成30年度	65	-1.6~-0.7	平成30年度	46	-1.4~-0.5

A・B問題を一体化

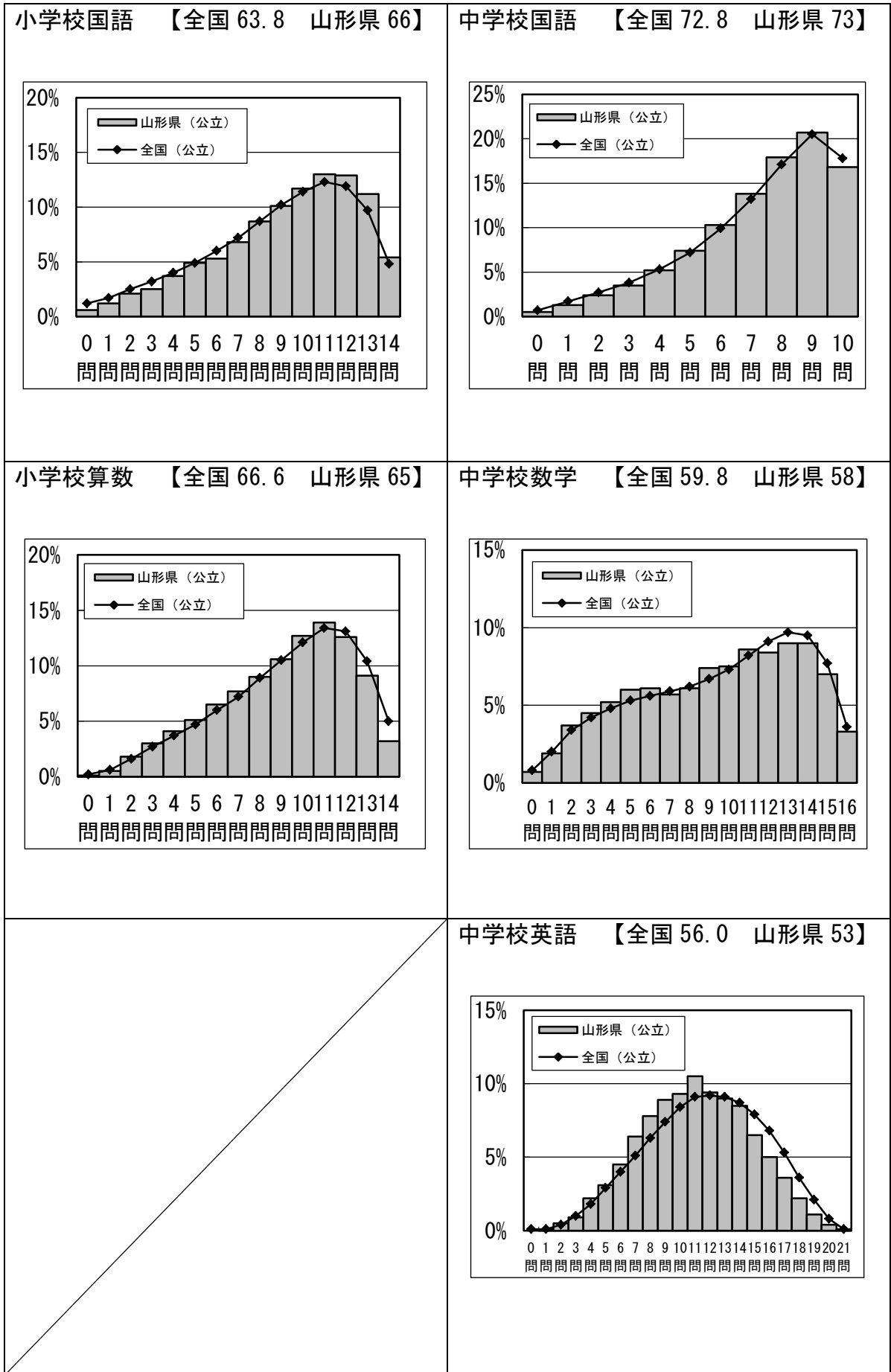
平成31年度	58	-2.3~-1.4
--------	----	-----------

## ○中学校英語

年度	平均正答率	全国との差
平成31年度	53	-3.5~-2.6


平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果による山形県の現状と課題

1 学力調査の結果（教科の平均正答率及び正答数分布グラフ）本県と全国との比較



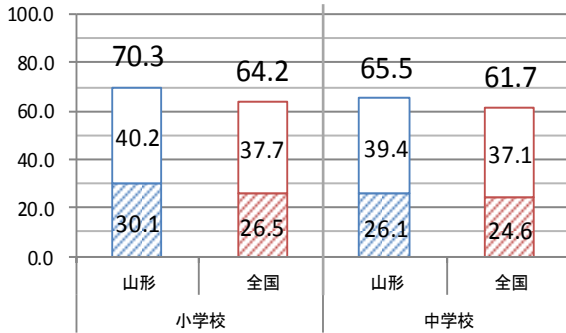
## 2 学習状況調査の結果から

 当てはまる

 どちらかと言えば当てはまる

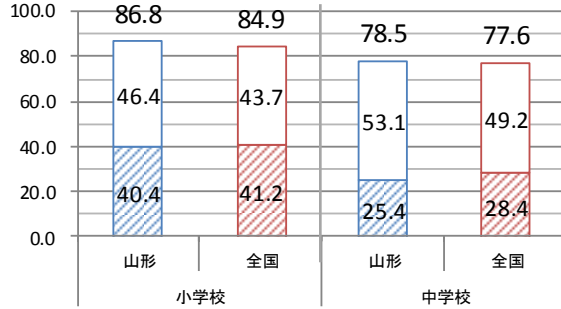
### (1) 教科に関すること

国語の勉強は好きだ



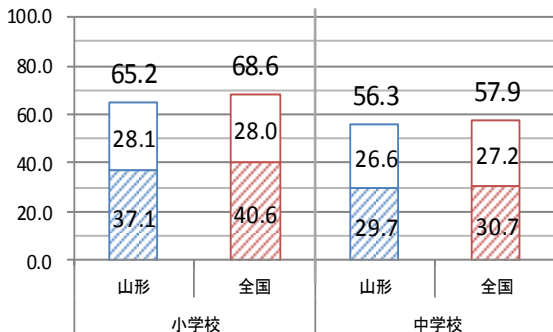
【H29 調査(山形)小 67.6 中 63.0】

国語の授業の内容はよく分かる



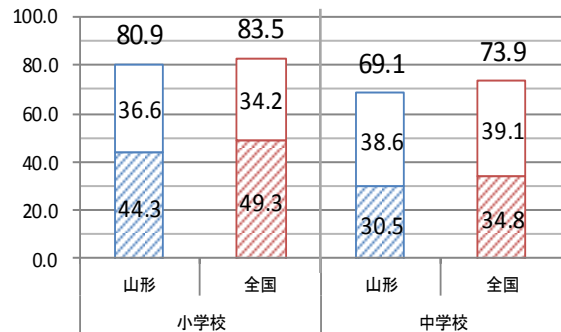
【H29 調査(山形)小 83.2 中 73.7】

算数・数学の勉強は好きだ



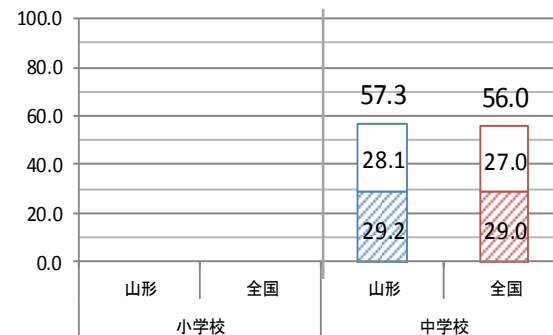
【H30 調査(山形)小 62.0 中 52.9】

算数・数学の授業の内容はよく分かる



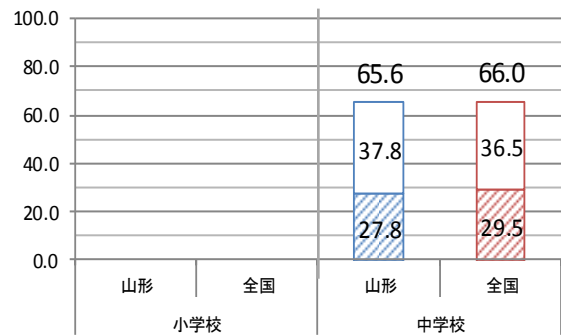
【H30 調査(山形)小 82.5 中 66.6】

英語の勉強は好きだ



※H31(令和元年度)新規

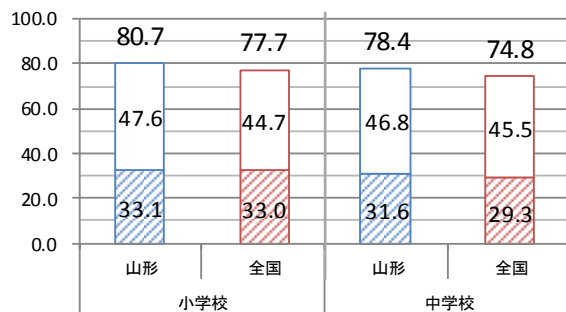
英語の授業はよく分かる



※H31(令和元年度)新規

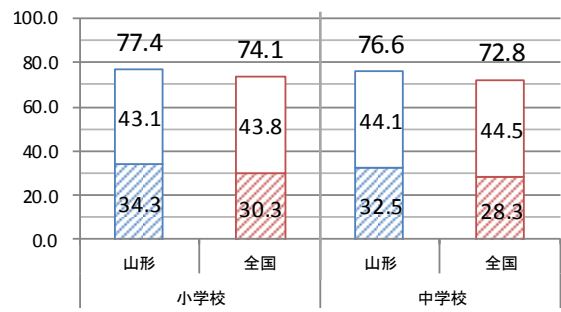
### (2) 探究型学習に関すること

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う



【H30(山形)小 79.9 中 77.1】

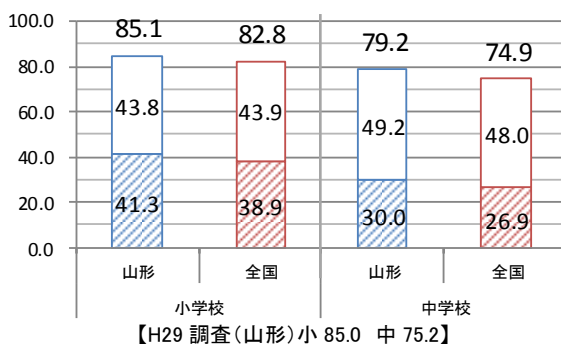
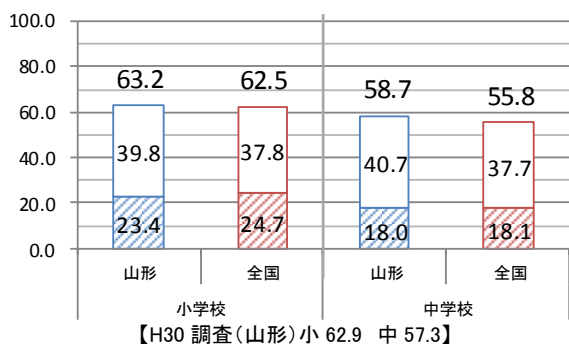
話合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



【H30 調査(山形)小 79.7 中 79.1】

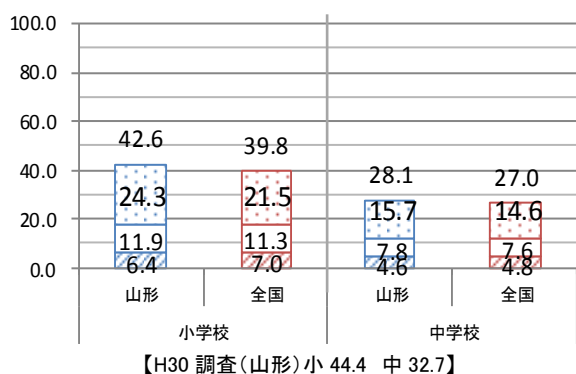
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していたと思う

授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている

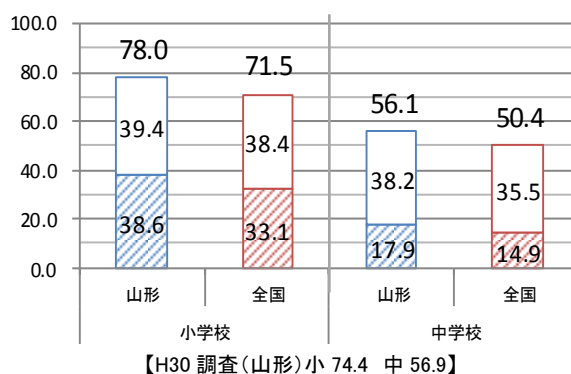


### (3) 家庭生活に関わること

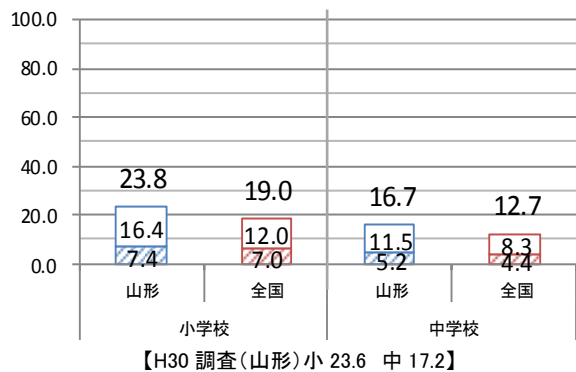
1日30分以上読書している



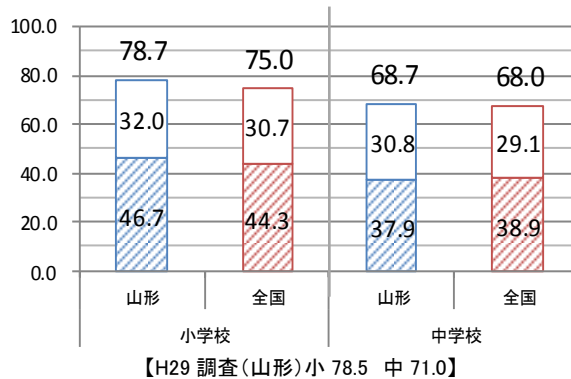
計画を立てて勉強している



新聞を読む(週1回以上)

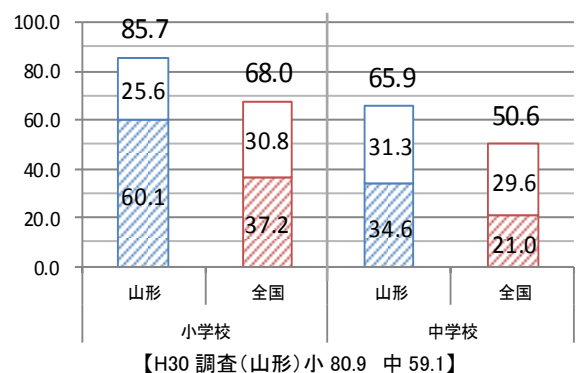


読書は好きだ

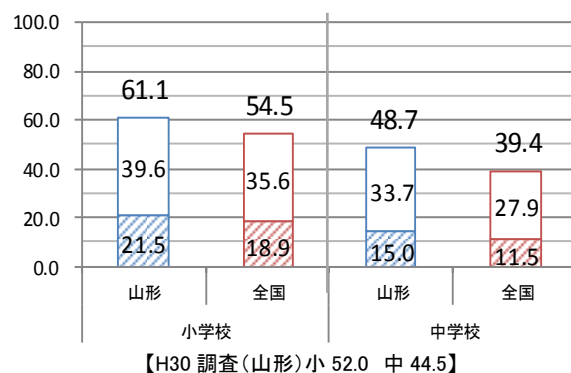


### (4) 地域に関わること

地域行事に参加している

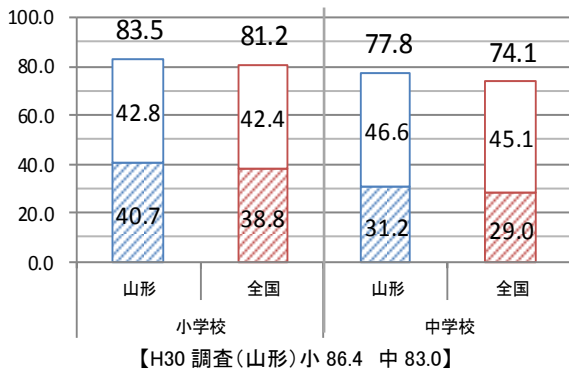


地域のために何をすべきか考える

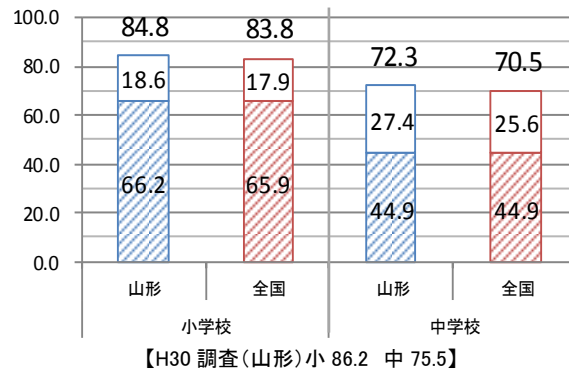


### (5) 児童・生徒自身に関わること

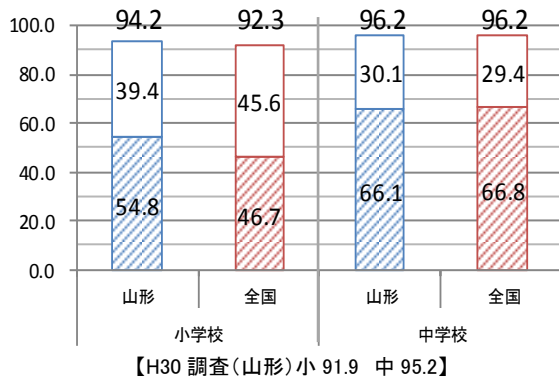
自分にはよいところがある



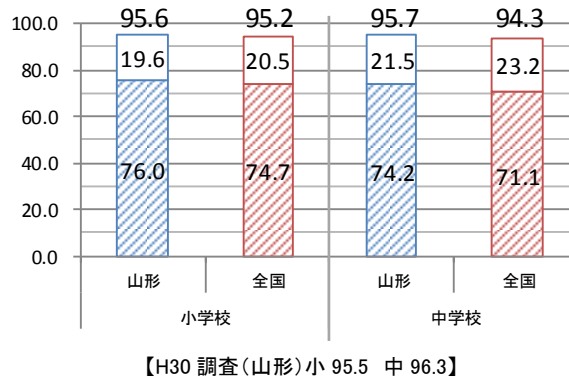
将来の夢や目標がある



学校の決まりを守っている

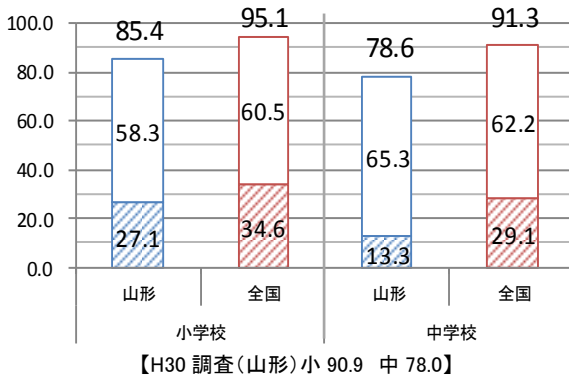


人の役に立ちたい

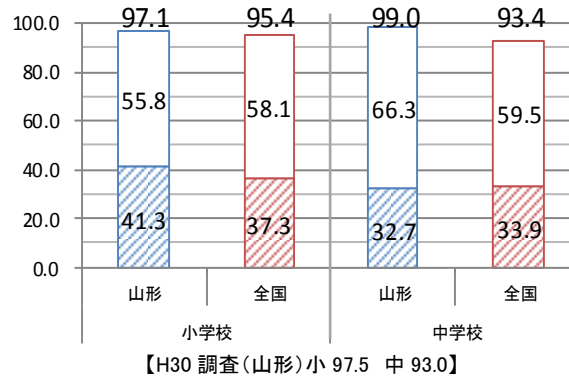


## 3 学校質問紙調査から

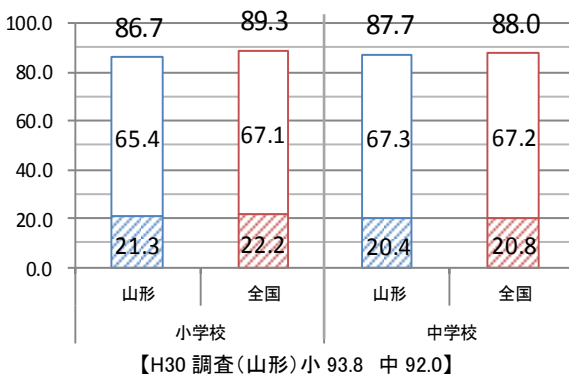
教科横断的な視点での、教育内容の組織的な配列



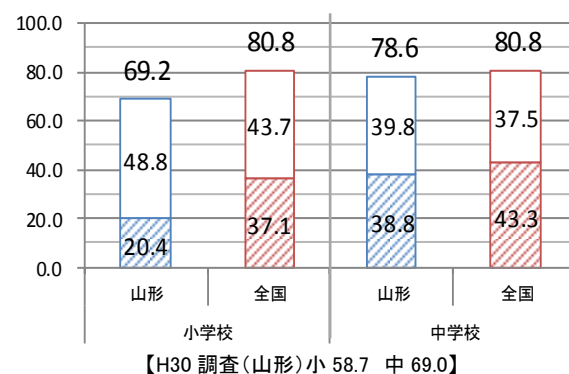
教育課程編成、実施、評価、改善の PDCA サイクル確立



習得・活用及び探究の過程を見通した授業改善



教員が ICT を活用した授業(週 1 回以上)



### 3 県教育委員会のコメント

#### ◆学力調査について

今年度から、知識・技能に関するA問題と活用に関するB問題が一体化されました。全国平均正答率と比較してみると、国語は小学校においてやや高く、中学校においておおむね同程度、算数・数学、英語は課題が多い結果となりました。学力向上に向けた取組みを更に充実させていく必要があると考えます。

＜国語＞ 漢字や接続詞など基本的な知識や、文章の読み取り、自分の考えをまとめたり記述したりする力は身につけている一方、文章や話の展開に即して情報を理解したり、自分の理解を確認するための質問をする力には課題が見られました。授業において、目的を明確にして情報を整理しながら文章を読んだり、情報を関連付けて話したり聞いたりできるような言語活動を充実させる必要があると考えます。

＜算数・数学＞ 資料の特徴や傾向を的確にとらえる力は身につけている一方、基本的な計算や立式、式や単位量の意味理解、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する力には課題が見られました。授業において、複数のグラフから必要な情報を取り出し情報を関連させて考えたり、2つの数量の変化や対応について数学的に表現したり、計算の過程を大切に、答えの意味を考えさせたりする必要があると考えます。

＜英語＞ 短い英文を聞いて答える力は身につけている一方、ある程度の長さやまとまりのある英文を聞いたり読んだりして答える力には課題が見られました。授業において、聞いて終わりではなく、理解したことをもとに話したり書いたりする場を設定したり、言語活動の中で学習した言語材料を様々な場面で活用したりできるように指導を工夫する必要があると考えます。

#### ◆学習状況調査について

児童生徒自身や地域に関することで例年肯定的に回答している項目は今年度も同様の傾向がありました。学校では話し合う活動を充実させている様子が窺えます。

＜児童生徒質問紙より＞ 自尊感情や規範意識が高く、地域の行事に参加する児童生徒が例年通り多く、地域と一体となって子ども達を育てていることがわかります。学校の授業等については、課題解決に向けて主体的に取り組み、話し合う活動を通して自分の考えの深まりや広がりを実感できている児童生徒が多い傾向があります。一方で、算数・数学の勉強が好き、授業の内容がよくわかると回答した児童生徒は、昨年度より増加しているものの全国平均と比較すると課題があります。まとめ・振り返りを重視しその時間に学んだことの定着を確実に図るとともに、児童生徒の挑戦しようとする気持ちを引き出す授業の工夫が必要だと考えます。

＜学校質問紙より＞ 授業等で話し合う活動を取り入れ、児童生徒の主体性や、課題解決能力、他者とよりよく生きていこうとする能力を育成しようとする姿勢が窺えます。一方、教育課程の工夫に関わる項目や、ICT 機器を活用した授業実践については課題があります。今後、教科横断的な視点による教育課程編成や ICT の効果的な活用について工夫していく必要があると考えます。

県教育委員会としましては、本調査結果の詳細な分析を行い、基礎・基本の確実な定着と、「勉強が好き・わかる」の好循環につながる探究型学習を通して、授業改善等が進むよう各市町村教育委員会とともに取り組んでまいります。